



●広島パークヒル病院 広報誌

第 3 号
2025 Spring Vol.3



医療法人 和 同 会
medical corporation WADOKAI

安心と笑顔
心つながる場所がここにある

Contents

- ・ごあいさつ
- ・病院機能評価の更新を受けました
- ・特集・緩和ケア病棟
- ・地域医療連携室から
- ・みんなで取り組んだ感染対策
- ・安全で活動的な生活を





「急性期病院の受け皿に」

この4月から、緩和ケア病棟の担当として、濱田宏医師を迎えることとなりました。もともと、広島大学病院麻酔蘇生科で勤務しており、その後、東京医科大学緩和医療部部長を務め、今回、定年退職後、当院に勤務してもらうこととなりました。様々な経験を当院でも発揮してもらえると期待しています。

当院は、回復期リハビリテーション病棟46床、医療療養病棟50床、緩和ケア病棟18床の114床で構成されております。私自身、広島市立広島市民病院に33年間勤務していたため、何とか、急性期病院の受け皿になりたいとの思いを強くもっています。その中で、当院の様々な機能は転院先としては最適であり、職員は急性期病院からの転院をできるだけ迅速に受けようと話してきました。その効果は出てきたと思っており、空床ができれば、早く入院させるのは徹底してきたと思っています。幸い、いろいろな病院からのご紹介が増えて、以前に比べて、病床利用率が向上してきており、大変ありがたいことと思っています。

当院の医療資源は、急性期病院と比較して、限りがありますが、誠実な医療を行うことを常日頃、職員に周知徹底しておりますので、今後とも、しっかり、当院を使っただけたらと思っています。

(病院長 荒木)



「心のこもった看護でみんなを幸せに」

地域の皆様には大変お世話になり感謝申し上げます。

看護部長として着任し5年が経過しました。新型コロナウイルス感染症のパンデミックや人口動態の変化による影響などに直面し、これまでの5年間は私にとって危機管理や想像力を育む大変貴重な時間となりました。そして、今、急速な少子高齢化に伴い、医療や看護・介護体制が大きな課題に直面する2025年を迎え、「地域包括ケアシステム」が推進され、看護の専門性や活躍に大きな期待が寄せられています。

広島パークヒル病院看護部は、「施設の基本方針に則り、組織の一員としての誇りと役割を自覚し、地域から必要とされる看護を提供します」という看護部の理念に基づき、急性期病院の後方病院として支える医療や福祉を提供する中で、地域のニーズと患者さんやご家族の思いや満足度に関心を持ち、古い価値観に固執せず時代の変化に応じて常に最新の情報を捉え、常に「患者さんにとって何が最善か」を考え対応できる人材を育成しています。また、看護部が大切にしていることは、「心のこもった看護」です。私たちが備えている知識・技術に温かい心と気配りと思いやり、倫理的な感性が備われば良い看護につながっていきます。優しい言葉、温かな心、倫理・道徳ある精神、愛情あふれる看護を実践し、患者さん・職員みんなが幸せになってほしいと心から願っています。

2025年、看護部は、社会が大きく変化していく中、看護のプロとして病院の機能を存分に活かし、患者さんやご家族の地域での暮らしを大切に考え、ニーズに応えられるよう「地域との連携や在宅・生活支援を大切にした看護」、「広島パークヒル病院ができる最善の看護」を実践してまいります。

(看護部長 宮迫)

病院機能評価の認定を受けました

当院は、2025年2月に財団法人日本医療機能評価機構の行う病院機能評価3rdG:Ver2.0を受審し、主機能として慢性期病院（医療療養病棟）、副機能として緩和ケア病院（緩和ケア病棟）の認定を受けました。慢性期病院での受審は、2004年に認定を受けて以来、5回目となりますが、緩和ケア病院の受審は初めてです。

2つの機能を受審するということで、診療部、看護部、事務部の多職種からなるプロジェクトチームを立ち上げ、領域ごとのリーダーを任命しました。多職種で何度も会議を行い、様々な視点での意見や考えを聞くことにより、当院の特徴や改善点について、新しい気づきを得ることができました。

医療療養病棟では、長期入院の患者さんが少しでも活動的に過ごせるよう、様々な工夫を凝らしたケアを提供しています。できるだけ寝たきりの時間を減らし、心身の活性化を促すため、多職種で連携を取り、患者さん一人ひとりの状態に合わせた支援を行っています。

特に、患者さんの離床の推進と、経口摂取への移行を重点的にサポートし、リハビリスタッフや管理栄養士と協力しながら、患者さんの自立を促す支援を行っています。また、レクリエーション活動も積極的に行い、患者さんが安心して充実した療養生活を送れるよう努めています。

緩和ケア病棟では、患者さんが人生の終末期を穏やかに過ごしていただけるよう「最善のケア」を目指し、職員一丸となって支援を行っています。医師や看護師をはじめとする多職種が連携し、患者さんの身体的苦痛を軽減するとともに、心のやすらぎを大切にした環境作りにも努めています。

また、ご家族の心のケアにも力を入れています。看取りの過程で感じる不安や悲しみに寄り添い、患者さんにご家族が穏やかな時間を共有できるよう、寄り添った看護を提供しています。

痛みなどの症状の管理だけでなく、患者さんや「その人らしく」最後まで過ごせるよう、個別の希望に応じたリハビリテーションも行っています。患者さんやご家族の想いに寄り添いながら、温かみのある緩和ケアを提供しています。

病院機能評価の受審に伴い、病室や病棟フロア、院内全ての環境改善に取り組みました。患者さんがより安全で快適に入院生活を送っていただける環境になるよう、各部署から課題を出し、話し合いを行いました。そして、緩和ケア病棟の環境整備をはじめ、院内の手すりの増設や補強、ベッドの更新やベッド周囲の整備などを行いました。さらに、スタッフの作業軽減にも取り組みました。

今回の認定を受け、今後も安全・安心な質の高い医療を提供し、地域の皆様には選ばれる病院であるよう職員全員が一丸となってがんばります。

（プロジェクトリーダー 事務次長 中下）



特集・緩和ケア病棟

病床数 (完全個室)	18床 有料2床 無料16床	医師 看護師長	濱田 宏 増田 知子	看護師 看護補助者	14名 3名
関連職員	リハビリスタッフ、相談員、薬剤師、管理栄養士、ボランティアスタッフ				



「担当医の紹介」

このたび緩和ケア病棟に赴任いたしました濱田宏と申します。昭和60年広島大学を卒業し、広島大学麻酔科に入局してからの40年間、麻酔科医として広島県内外の主に手術医療に従事してまいりました。2003年から17年間は広島大学病院に勤務し、その中で緩和ケアにも関わってまいりました。2020年春、コロナが始まった時に東京医科大学に赴任し、5年間緩和ケア専従医として勤めてきました。当初から定年退職とともに広島に帰って来る予定でしたので、定年後は地域の緩和医療に少しでも貢献できればと考えていました。数年前、麻酔科の大先輩である河原道夫先生に軽く相談したつもりが、気がついたら広島パークヒル病院で採用いただくことになっていました。

これまで病院の緩和ケアチームのみで緩和ケア病棟での勤務経験がありませんが、精一杯務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。(緩和ケア病棟担当医師 濱田)

「病院機能評価受審を終えて」

副機能としての受審ではありましたが、緩和ケア病棟としては開設以降初めての受審ということもあって、約1年間に渡って準備を行いました。毎週会議を行い、病棟全体を1から見直しました。膨大な作業ではありましたが、ひとつひとつ整理していくことで、できていること、できていないことを明確にすることができました。

受審が決定した当初は大きな不安でいっぱいでしたが、他部署、他部門のサポートを得ながら、病棟全体で取り組むことができ、チームとしての一体感が生まれたように感じています。指摘事項もありましたが、何より課題を明確にできたことは、大きな収穫となり、このような機会が得られたことに感謝しています。

受審がゴールではなく、新たなスタートとして、できていることを継続していくこと、課題については、対策を立て改善していくことで、より質の高い緩和ケア病棟を目指して進んでいきたいと思っています。(緩和ケア病棟師長 増田)

「緩和ケア病棟のリハビリテーション」

『その人らしい暮らし』を最後まで支えるため、緩和ケア病棟のすべての入院患者をリハビリテーションの対象としています。患者さんご家族の想いを尊重し、身体的・精神的苦痛の緩和やその時期・体調に応じたADL支援、生活環境の調整、離床活動の提案、家族への支援等を行っています。患者さんが一日一日をより快適に過ごしていただけるように、多職種と協働して日々の変化する病状に対し、QOL向上を支援します。(理学療法士 小川)

「療養環境を整えました」

病院機能評価受審を機に、療養環境の整備にも取り組みました。

その一つとしてカーペットを更新しました。ベージュからグレーを基調としたカーペットに新調し、落ち着いた雰囲気になりました。また、病棟全体がすっきりとした印象になるよう、絵画の配置換えも行いました。そのほか、BS対応テレビや、床頭台、ナースコールなど、新しい設備に整えました。

病棟内だけでなく、病棟からの眺望も自慢の一つです。瀬戸内海を一望でき、天気の良い日の見渡しも、夜景もどちらも美しいです。特に、正面から登ってくる朝日は1日の始まりに、清々しさを与えてくれます。患者さんはもちろん、夜勤明けのスタッフの癒しにもなっています。

今まで以上に患者さんやご家族が安心して穏やかにすごせる緩和ケア病棟になっています。事前にお知らせいただければ、見学も可能です。ぜひ、足を運んでください。



●病棟からの眺望



●新しいベッドや床頭台

「学会でポスター発表をしました」

第47回 日本死の臨床研究会年次大会 ～つらさやかなしさを持つ人々と共に歩む

2024.10.12(土)13(日) 会場:札幌コンベンションセンター

ポスターセッション | チームケア(病院)

ポスターセッション11-1「看護師にも緩和ケアレジリエンスを高める目標管理」



学会では活発な意見交換が行われ、「必要な活動だと思うので、ぜひ継続してください」との言葉をいただき、とても励みになりました。今回のセッションには緩和ケア医の参加もあり、職種の垣根を越えてともに発表することで、困難な事例や悩みを共有することができました。全国のさまざまな職種で共通する課題を実感でき、とても貴重な経験となりました。

「ご遺族の訪問にて」

ご遺族の前川さんが病棟を尋ねてきてくださいました。前川さんはがん患者さんや、その家族に対して社会貢献活動をおこなっています。そのきっかけは当緩和ケア病棟でご家族を看取られたことでした。前川さんは「久しぶりに緩和ケア病棟を訪れ、変わったところも、変わらないところもすべてが懐かしく感じられました。母が過ごした病室の扉や部屋番号のプレートを目にしたときは、

胸が詰まる思いがしました。パークヒル病院の緩和ケア病棟は、私にとって大切な原点です。」と話してくださいました。

緩和ケア病棟で過ごした日々が、残されたご家族の生きていく原動力になっていることを知り、とても感慨深い想いがすると同時に、勇気をいただいたように感じます。

一期一会、日々の出逢いに感謝し、最善を目指したケアに努めていきたいと思います。(緩和ケア病棟師長 増田)



●前川知子さんと共に

地域医療連携室から

◎2024年度実績

	回復期リハビリ病棟 46床	医療療養病棟 50床	緩和ケア病棟 18床	合 計 104床
年間入院患者数	173人	79人	94人	346人
年間退院患者数	163人	72人	97人	332人
入院患者延数	12,006人	17,108人	4,139人	33,253人
平均入院患者数	32.9人	46.9人	11.3人	91.1人
平均在院日数	71.5日	226.6日	43.3日	98.1日
病床稼働率	71.5%	93.7%	62.8%	79.9%
平均年齢	87.1歳	84.4歳	82.0歳	85.1歳
入院待機日数	11.2日	18.3日	5.7日	11.3日

病院全体の取り組みとして相談があれば早目の受け入れを心がけています。しかし、紹介元の病院のベッドの空き状況や患者さんの病状、ご家族のご都合により転院日が延期になるケースもあり、紹介元と相談しながら柔軟に入院日の調整を行っているため入院待機日数が長くなる方もいらっしゃいます。また、2025年に入り新型コロナやインフルエンザ等の感染症の影響か、肺炎後の患者さんの相談が急増し、回復期リハビリ病棟と医療療養病棟は満床が続き、紹介元の医療機関の皆様にはご迷惑をおかけしている状況が続いていました。

回復期リハビリ病棟では認知症の方や超高齢者の方も入院されていますが、在宅復帰率は80%以上です。医療療養病棟は長期療養の患者さんが多いですが、高カロリー輸液から経口摂取への移行を積極的に取り組んでおり、リハビリでADLが向上、食事が摂れるようになり、医療の必要がなくなった患者さんには在宅や施設への退院支援を行い、在宅復帰率は20%となっています。緩和ケア病棟は入院料2を取得しており、高齢者の入院患者さんが多く、半年以上入院されている方もいらっしゃいます。

最後に当院は介護老人保健施設西広島幸楽苑、介護付き有料老人ホーム西広島あかり苑、西広島グループホームなごみの家も併設しています。地域医療連携室には介護老人保健施設の相談員もおり、相談いただいた患者さんは当院での受け入れが困難な場合も併設施設等で受入れが出来ないか検討しています。

今後とも何かございましたら広島パークヒル病院地域医療連携室までお気軽にお問合せをいただきますようお願いしております。

(相談員 岡本)

みんなで取り組んだ感染対策活動

当院ICTとして、2024年度は「手指衛生の徹底」に最も力を入れて取り組みました。手指衛生の座学だけでなく、全員参加の手指衛生トレーニングの実施や、擦式アルコール消毒薬の使用量の調査を行いました。WHOで推奨されている入院患者1人当たり20mLの使用量を目標とし、感染対策グループ丸となって活動を推進しました。初めは使用量が伸び悩みましたが、リンクスタッフの協力により徐々に使用量が増え始め、活動の成果が得られています。

また、8月には広島市民病院の妹尾医師をお招きし、「高齢者における抗菌薬の適正使用」というテーマで講演をしていただきました。高齢者施設での抗菌薬使用の理想とのギャップ、終末期の感染症治療の考え方についての学びを深め、改めて感染症治療の難しさを認識しました。

さらに、清掃スタッフを対象とした環境整備の研修や、PPEの適切な着脱方法、ゾーニングのシミュレーション研修などを実施し、施設全体で感染対策の強化に取り組みしました。これらの積極的な活動により、職員の意識向上が図られ、2024年度は「クラスターの発生ゼロ」、冬季に大流行した「感染性胃腸炎の院内感染ゼロ」という大きな成果を達成することができました。

2025年度も職員全体で感染対策活動をさらに強化し、安心で安全な医療環境を維持できるよう取り組んでいきます。



2024年度 擦式アルコール消毒薬 月別使用量



●広島市民病院 妹尾和憲医師
「高齢者における抗菌薬の適正使用」



●ゾーニング研修

安全で活動的な生活を



私は広島パークヒル病院で、主として訪問リハビリテーションを担当させていただいています。訪問リハビリテーションの利用者はほとんどが高齢者の方です。年齢が進むとともに体力の低下は避けがたく、種々の疾患を抱えている方も少なくありません。たとえば、転倒骨折した方が入院治療を経て在宅復帰した場合、そのままでは再度転倒して怪我をしたり、ますます心身の機能が低下して自力で動けなくなってしまう場合があります。そうした事態を避けるために適切なリハビリテーションが必要とされる場合があります。

在宅生活をされている方が利用できるリハビリテーションには、利用者が病院・施設に通って行う通院・通所リハビリテーションと、理学療法士・作業療法士等のリハビリ専門職員が、利用者の自宅に訪問してリハビリテーションを行う訪問リハビリテーションがあり、両者にはそれぞれの利点がありますので、利用者の状態に応じてどちらか一方、あるいは両者を組み合わせて行います。利用者の皆様に少しでも安全で活動的な生活を送っていただくお手伝いが出来ればと思っています。

(担当医師 池田)

池田医師から
一言いただいたよ



たったのひとりごと

去年の9月から、ぼくのいる病院も電子カルテに変わったんだ。今年、2月に機能評価っていうのを受審してたけど、患者の説明に紙カルテも一緒に使って、ぶ〜ち大変そうだった。でも、すごくみんなで頑張ってたよ。患者さんの話は、一人ひとりをすごく大事に思ってくれてるって分かって、ぼくがうれしくなったよ。それに、サーベイヤーさんがね、すごく病院はキレイだっていってくれた。病棟からの眺めはspecialだって。これは、やっぱり僕の自慢だな。これからも、院内のはなしをみんなに教えるよ。またね!

※名前の由来／広島弁の方言「たう」は届くの意味になります。足りたこと[たった][TATTA]

広報誌
イメージキャラクター

たった



■病院理念

◎常に患者さんご家族の立場に立って考え行動し、医療・保健・福祉の分野で連携充実を図り、地域のニーズに応えます

■基本方針

- ①研鑽と協調に努め、安全で質の高い医療サービスを目指します
- ②地域住民と共に歩み、互いに尊重し、喜び、生きがいのある医療を推進します
- ③豊かな人間性を養い、資質の向上に努めます

外来のご案内 休診日／土・日曜日、祝祭日、盆、年末年始

診療時間	月	火	水	木	金
9:00~12:00	羽路 池田	荒木 土井	池田	羽路 濱田	土井 池田
14:00~16:00	池田	川本	川本 池田	荒木	池田

医療法人 和同会

広島パークヒル病院



診療科目／内科・脳神経内科・リハビリテーション科・放射線科
回復期リハビリテーション46床・医療療養50床・緩和ケア18床

〒733-0851 広島市西区田方2丁目16-45

TEL (082) 274-1600 FAX (082) 274-1322

<http://ph.wadoukai.jp/>

- 広島パークヒル病院 訪問リハビリテーション TEL (082) 272-7538
- 居宅介護支援事業所 おまかせ西広島 TEL (082) 507-1288
- 訪問看護ステーション ハローナース西広島 TEL (082) 274-3838
- 介護老人保健施設 西広島幸楽苑 TEL (082) 274-1311
- 西広島幸楽苑 通所リハビリテーション TEL (082) 507-1367
- 西広島グループホーム なごみの家 TEL (082) 274-1600
- 介護付き有料老人ホーム 西広島あかり苑 TEL (082) 271-6511

●アクセス



- 車の場合／西広島バイパスから広島湯来線を北に5分
山陽自動車道五日市ICから広島湯来線を南に10分
- バスの場合／「美鈴が丘・山田団地」「美鈴が丘高校」行き
広島高等技術専門学校前下車 徒歩5分

編集後記

初夏の日差しに、木々の緑が映える季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか?当院も新年度を迎え新しいスタッフが加わりました。

さて、広報誌TATTAは3号目にして初めて予定通りの発行となりました。2月に病院機能評価を受審した際に「外部にもっと発信した方が良い」とアドバイスをいただきました。それに伴い、法人のパンフレットも新しく作成しました。今後も皆様のお役に立てる情報を発信してまいります。広報誌TATTA並びに広島パークヒル病院をよろしく願いいたします。

ホームページも定期的に更新していますので覗いてみてくださいね。

(広報委員会委員長 O)